

オリジナル道徳教材

中学年 公正、公平、社会正義

# 『学級会』



作..かないともゆき

絵..なぐもゆうと

四年生の二学期。わたしはずっとやりたかった学級会の司会をまかされることになった。次回の学級会は、「クラスがもっとよくなるためのレクリエーション」について話し合うことになっている。

わたしは、話合いがうまく進められるか少し不安だったが、クラスがよりよくなるように、やる気十分で学級会にのぞんだ。

「やりたいレクリエーションの意見はありますか？」

思っていたより、たくさん手があがった。わたしは、クラスで一番仲のよいアイさんをさした。アイさんはふだんのじゅぎょうでもたくさん発言をしている。

「宝さがしがよいと思います。グループでそうだしながら活動するから、話したことが少ない人も仲よくなるからです。」

さすが、アイさんだ。

トモ君が手をあげている。トモ君は、とても元気な子で、じゅぎょうでもたくさん手をあげて発言をする。でも、あまり考えないで発言することがあり、ふだんは忘れ物をすることが多い。トモ君と今年はじめと同じクラスになって、休み時間にもほとんど話をしたことがないこともあり、どんな意見を言うのか少し不安だったがさしてみた。

「えっと・・・、何を言おうと思っていたのか忘れちゃいました。」

トモ君がおどけたように言った。周りの子は笑っているが、わたしはちよつとムツとした。「こっちは、いっしょうけんめい司会しているのに！」と、心の中で思った。

次に、同じ習い事に通っていて、いつもいっしょにいるシュン君をさした。シュン君は、算数がとくいで、せつめいをするのが上手な子だ。

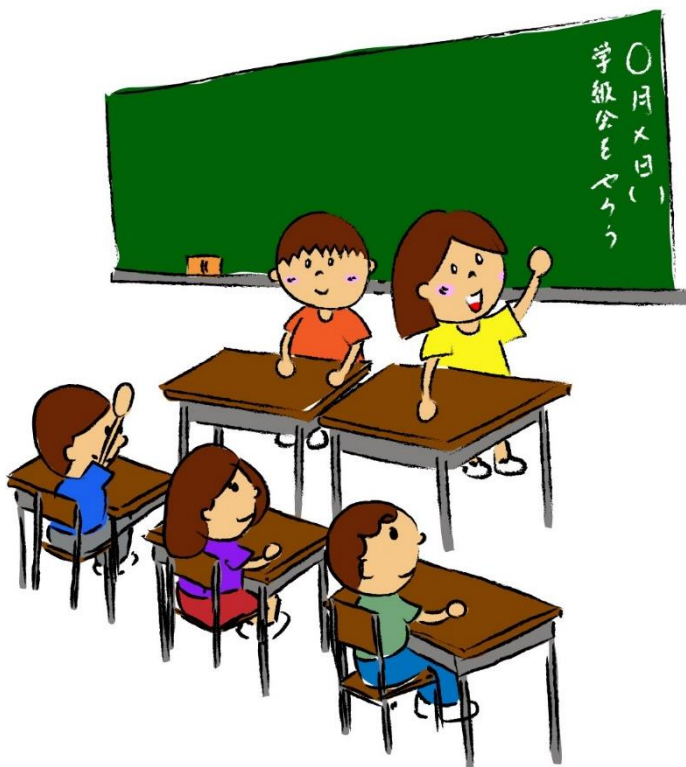
学級会は、じゅんちように進んだ。

「たくさん意見が出てきたので、どのレクリエーションをするとクラスがよりよくなるか意見を出してください。」

学級会の残り時間はわずか。ここは、うまく話をまとめてくれる人に発言してもらいたかった。

トモ君が、ふたたび元気よく手をあげている。しかし、まじめに意見を言ってくれるか不安に思い、さすことができなかった。わたしは、またアイさんとシュン君をさした。

意見はうまくまとまった。司会の仕事をきちんと行うことができて、一安心していた。



学級会の後、トモ君が友だち何人かと話している声が聞こえてきた。

「ぼく、学級会で『お化けやしき』がしたいっていう意見を出そうと思っていたのに、言えなかった。」

「えーっ！『お化けやしき』おもしろそう！なんで意見出さなかったの？」

「一回、言う内容を忘れちゃって、そのあと思い出したんだけど、さされなかったから言えなかったんだあ……。」

「ざんねんだなあ。」

うまく司会ができていたと思っていたので、その子たちの「ざんねんだ」という言葉を聞いて、少しショックだった。学級会のときのことを思い出してみると、わたしは、アイさんとシュン君を何回かさしていた。トモ君は……最初にさした後は、一回もさしていなかった。

わたしは、学級会がうまくすすむように、いっしょうけんめいがんばった。それは自信がある。大事なところで、話をするのが上手な友達をさすこともまちがっていないと思った。

でも、

「『お化けやしき』……、楽しそうだったな……。」

わたしは、もう一度自分の司会の仕方についてふり返ってみた。